【学　　年】　6年　　【教科・単元名など】　国語「『平和』について考える」（全12時間）導入

【 実践内容 】

単元と学習の流れ□

●単元のねらい

「平和」について自分なりの考えを持ち、意見文を書く

●知的好奇心を高める手だて

・社会科「二つの戦争とアジア・日本」、「戦争から平和へ」と合科的に扱う。
　→戦争が起こる背景や、被害、人々の暮らしなどを知ることで、「平和」について考えるベースを作る。
・「平和」に関する、身近な問題をストックしておく。
　→「平和」という捉えにくい話題を、自分にかかわる問題として引き寄せる

●実践の概要と子どもたちの様子

事前に社会科「二つの戦争とアジア・日本」と「戦争から平和へ」を扱った。子どもたちは、「なんで戦争なんて起こすのだろう」「どうして戦争をやめられなかったのだろう」「一体どれくらいの被害が出たのだろう」という思いを持つようになった。それをもとに、自分なりのテーマを決め、調べ学習を進めた。調べや情報交換を通じ、戦争が起こる背景や、被害、人々の暮らしなどに関して、情報を共有することができた。

共有した情報を、「平和」について考えるための土台とした。

国語では最初に、「平和のとりでを築く」を読み、「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という表現に込められた想いについて考えた。そのことによって、一人ひとりが平和について真剣に考え、行動していくことの大切さに目を向けられるようにした。

●知的好奇心について

この学習での知的好奇心は、人類が有史以来希求しながら、達成できていない「平和の実現」のために、自分なりの考えを持つことにある。ここで、「世界的な平和」を取り上げたならば、「話し合いで解決すべき」「暴力を無くす」といった、一種きれいごとのような意見に終始してしまいそうであった。そこで、「クラスの平和」のように、自分にとって身近な平和についても扱うようにした。それによって、32人という世界から見たらごく少人数の集団内でも、平和の達成は難しいという思いを持てるようにした。

●導入の大まかな流れ

T「『戦争』や『平和』について知っていることを教えてくれる？
　C　日本は平和かもしれないけど、世界に目を向けると平和でない国もある
　C　日本は戦争話してないけど、暴力やいじめ、凶悪な事件はある。平和とは言えない？
　C　そう考えると、平和の実現はすごく難しい
　C　完全な平和は、無理だ。
　C　確かに無理っぽい…　でも平和に近づけることはできるんじゃないかな
　C　皆が同じ気持ちになればできる
T「それについて、教科書にある考えが載ってるよ(「平和のとりでを築く」)。読んでみる？
　C　読んでみよう。読んだら何か糸口がつかめるかも。
　　↓
「平和のとりでを築く」を読む
「人の心の中に平和のとりでを築かなくてはならない」という表現に込められた想いについて考える

●子どもの様子と反省

実際においては、最初ほとんどの子どもたちは、「暴力をしない」「全て話し合いで解決する」といった考えを持った。しかしそれは、実際に自分がこれから実践していく「決意」を伴ったものではなく、いわばきれいごとに見えた。「平和の実現は難しい」と考えている児童の意見を取り上げることで、実際に「自分ができるのか」と、自分事として捉えられるようになってきた。しかし、一歩授業を離れると、自分の行動に反映できない児童もいた。なんらかの決意を持って自分なりの意見文を書けるようにするための工夫の必要を感じた。